

臨床研究コーディネーター養成カリキュラムの標準化に関する研究
第3回班会議（平成25年10月4日）

発表者：山本精一郎（国立がん研究センター）

国立がんセンターの山本です。よろしくお願いします。

この話を初めに楠岡先生からいただいたときに、私は何もわからないので小林さんをお願いしましたと言ったんですけども、一緒においでというふうに言われましたので、せっかくのお誘いなので参りました。小林さんの発表に特につけ加えることはないのですが、私としては、我々が開発の方々から研究費をいただいてつくっている研究班のe-learningのサイトICRwebを紹介したいと思います。今、大体2万5,000人ぐらいの方が登録していて、1万人ぐらいの方に初級編の修了証を発行しています。初級編は、前回の臨床指針改訂の際に記載された教育義務に対応する内容として作っています。指針では教育義務の教育の具体的な中身は言っていないので、恐らくそれは各施設なり各団体に考えるべきということだと思つたので、これは我々が考えた内容となっています。

例題とかはどうしてもがんになっちゃってしまっているところが多いんですけども、中身はがんだけじゃないつもりでつくっています。もう、サイトをつくって7年ぐらいになるんですけども、今回、去年新しく研究費をもらい直すことになったときに、対象者別に分けなさいということだったので、前はレベル別に分けていたんですけども、今年の1月のリニューアルの際に、対象者別にコースを作り、臨床研究者コースや倫理審査委員会コースに加えて、CRC・DMコースというものも作りました。

対象者別にしたというのは何をしたかということ、今まで110個ぐらい講義があったんですけども、それを例えば統計学とか倫理とかそういうふうに分けて、分けた10個ぐらいのものを組み合わせて、臨床研究者はこれとこれ、CRCさんはこれとこれ、倫理審査委員会はこれとこれというふうな感じで、モジュールをくっつけるような感じにしてみました。また、それぞれのモジュールごとに修了証というのを出せるようにしました。前は初級編しか修了証を出せなかったんですけども、リニューアル後のサイトはそれぞれ小さいモジュールごとに出せるようにして達成感が得られるようにしました。そんなものでは達成感はないかもしれませんが、全部やると何かが出るならやろうかなという気に多少はなるんじゃないかなと思っています。あと、ちょっとまだ十分できていないんですけども、仕事の行き帰りとかにモバイルで、画面は余り見なくても耳で聞いていればある程度わかるからみたいなものを目指して今変えているところです。

そこで、このCRCコースはどういう内容になっているかということ、基本的にはさっき小林さんがお話しされた、小林さんが研究班でやってくれたセミナーの内容を載せていて、それがこの導入研修とアドバンス1、2、3となっています。さらに、今回、JSMOで話された内容も載せることにしていて、今のお話でやっぱり専門が進むと臓器ごとというふうになっていく部分はあると思うので、がんに関してのアドバンスということになっています。それで、それプラス倫理指針についても知っておいてもらいたいし、プロト

コルの書き方だとか論文の書き方とかも知ってほしいと思い、これらもCRCコースに含めました。もともとプロトコルをどうやって書こうと研究者が思っているのか。それから将来的に論文というのはどういうふうに書かれるべきものなのかということもわかったほうがもちろん研究の理解も進むだろうと思っています。

それで、このサイトは我々が言いたいことを載せているというよりは、今や2万5,000人も登録してくれていて、サイトからメールを出せば2万5,000人の研究者に、CRCさんとかいろんな人も含めた人たちに届くということなので、ちょっとしたプラットフォームだなと私は思っています。つまり、今回も研発さんとしては、eラーニングが結構たくさんあるからちょっと絞らましようみたいな方向性があったみたいなので、むしろ絞ったときにうちのが残るというよりは、今までほかで作成したe-learningの維持費がないんだったら我々のところを使っていただくとか、先生方がされているような、CRCのあるべき姿に応じた研修みたいなのができたときに、提供のプラットフォームとして我々のサイトを使っていただければ、と思っています。そういう意味で、さっき、あるべき姿が先か研修が先かというようにお話がありましたけれども、こうあるべきでこういう要件を勉強しなさいみたいなのがあったら我々のサイトに載せることは可能なので、もとの先生方の意向をなるべく尊重した形で載せられるようにして、修了証を出したければ出すみたいなこともできると思います。結局、こういうものはシステムのところで結構お金がかかってしまうので、共通のプラットフォームだと思って使っていただければなと思います。そういうふうに、いろんなところでリンクを張りながらやったほうがお互いに利用されると思うのでいいかなと思いますので、もしよかったですらぜひ将来に使っていただければというふうに思います。

以上です。